

6 ・ 2 3 反 安 保 学 習 会 の お 知 ら せ

日時：6月23日(月)18:00～

場所：田中機械ホール

講師：永嶋靖久弁護士(大阪労働者弁護団)

これまで港合同は、夏季闘争を6月反安保月間として、とりわけ沖縄返還をめぐって激しく闘われた70年安保闘争の頃から活動の重要な柱の一つと位置づけ闘いぬいてきました。

「6月23日」とは、1960年に改定日米安全保障条約が批准・発効された日です。当時、三井三池の闘いもあり、「安保と三池」という形で激しく労働者・学生・市民が労働現場と国会前で闘いぬいていました。闘争の過程では東大生の樺美智子さんが機動隊に虐殺されました。この安保反対闘争の大きさに岸内閣は打倒されたのです。

1970年には、政府が10年前を繰り返さないために、安保条約の「期限切れ・自動延長」という手段をとりましたが、総評の中央メーデーで「反安保」のスローガンが抜けたことに対して、大阪では「総評の右傾化阻止」の横断幕が掲げられ、その後も「6・23反安保行動」は続けられてきましたが、国鉄分割民営化 連合結成と経過する中で、労働組合運動そのものが運動としても考え方としても衰退していく中で、「6・23」の取り組みも後退してきました。

しかし今、領土問題など北東アジアでの軍事的緊張が醸し出され、それを背景に安倍政権や自民党・維新の会など有象無象の改憲勢力が結集し、憲法96条改正を叫び、天皇の元首化、軍隊保有の明記、憲法9条の破棄を狙っています。沖縄でのオスプレイ配備と辺野古新基地建設の強行、橋下市長の「慰安婦制度は必要」とする発言は、再び戦争をする宣言です。安倍政権と橋下市長を打倒する力強い労働運動の登場が求められています。

港合同が「6・23反安保行動」と「10・21国際反戦デー闘争」を堅持して40年を超える今、反戦・反安保の闘いこそ全労働者の課題として声を上げ、行動に打って出るときです。大阪港軍港化阻止の闘いをはじめ、地域から闘う労働組合として、反戦・反基地・反安保の闘いをさらに積極的に進めよう！

港合同組合員は全員参加

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！